

令和 5 年 5 月 24 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00120

研究課題名（和文）疑似的事例の分析による「芸術の定義」の論理的・経験的研究

研究課題名（英文）A Logical and Empirical Investigation of the Definition of Art by Analyses of Hard Cases

研究代表者

三浦 俊彦（Miura, Toshihiko）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授

研究者番号：10219587

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：芸術と非芸術の境界事例の研究の端緒として、特定ジャンルの境界事例（反娯楽的なアニメ）の分析から始め、当該作品と芸術・非芸術の境界事例（コンセプチュアルアート）との内在的関係を実証的に提示した。そこからコンセプチュアルアートを伝統的な美的定義で芸術認定する作業へ進み、美的定義とそれ以外の定義（制度的定義、歴史的定義など）、そして反本質主義的定義論との比較研究を通じて、芸術定義に関する72種類の理論の抽出に至り、それらの体系的配列に取り掛かる枠組みを作成した。美的定義の中の「意図主義的機能主義」を一般化した「志向性理論」を定式化した既発表論文を洗練して、最終的な定式化を行なう態勢を整えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

諸事例のうちどの範囲を「芸術」と認定すべきかという説得的な定義論は、近年多くの分野で問題化しつつあるカテゴリ認定のトラブルに光を投げかける。たとえば2023年5月現在、国民的議論の対象になっている「LGBT理解増進法案」は、「男性」「女性」「ジェンダー」といった語の定義を曖昧にしたまま一足飛びに社会構造を変えかねない倫理的枠組み変更を求めたところにトラブルの原因が認められる。概念の定義とは何か、といった基礎的反省を含む本研究は、芸術カテゴリの分析の過程でジェンダー概念批判の論文を3編生み出しており、理論的成果が社会問題に貢献する可能性の一つのモデルを提供するものである。

研究成果の概要（英文）： As a starting point for research on borderline cases between art and non-art, we began by analyzing a borderline case of a specific genre (anti-entertainment anime) and empirically presented the intrinsic relationship between the work in question and a borderline case between art and non-art (conceptual art). From there, we proceeded to identifying conceptual art as art by the traditional aesthetic definitions, and through comparative research of the aesthetic definition, other definitions (institutional definitions, historical definitions, etc.), and anti-essentialist theories, we arrived at the extraction of 72 different theories of art definition and created a framework to begin the systematic arrangement of these theories. We are now ready to formulate the final formulation by refining the previously published paper that presented "intentionality theory," a generalization of "intentionalist functionalism" among aesthetic definitions.

研究分野：分析哲学、美学芸術学

キーワード：芸術の定義 機能主義 制度主義 歴史主義 コンセプチュアルアート ジェンダー 意図 同型対応

1. 研究開始当初の背景

(1) 芸術と非芸術の境界事例を探るには、特定芸術形式の境界事例を探ることから開始するのが方法的に賢明だと思われた。採用した芸術形式は、アニメである。アニメに期待される娯楽性を犠牲にして実験アートを展開し、多くのファンを失望させた『涼宮ハルヒの憂鬱』の中の「エンドレスエイト」を論じた単著を上梓した直後に本研究を開始した。

(2) 「エンドレスエイト」が物語上の数値の上でジョン・ケージのコンセプチュアル作品を引用していることを明らかにした延長で、コンセプチュアルアート、ジョーク、自然的対象などの疑似的芸術事例の分析に取り掛かった。

2. 研究の目的

(1) 研究代表者が属する研究室は「美学芸術学」であるが、その名の通り、「美(広義の「美的」)」と「芸術」との本質の関係は明らかに思われる。しかし、20世紀後半以降、伝統的な「芸術の美的定義」は定説の地位から転落し、代わって「手続き的定義」や「反本質主義」が台頭した。美的定義に対する疑念は二種類に限られる。一つは、コンセプチュアルアートに代表される「美的でない(知覚的ですらない)芸術作品」の多様な展開が、美的定義に対する反例であるとする経験的反論。もう一つは、「美的経験」のようなものが存在するのか、「美的」という概念が一群の弁別可能な特徴に対応すると考えるのは錯誤ではないか、という概念的な反論。この両者を反駁するのが本研究の目的である。

(2) 美的定義を擁護することは、芸術の存在意義は何か、なぜ社会で尊重されてきたか、といった基本的な問題を理解可能にする。逆に、美的定義を否定することは、基本的な問題を理解困難にする。美学芸術学には、基本問題を理解困難にしておいてその上部に不要な設問を構築し、自己目的的研究を再生産している疑いのある研究が少なくない。本研究ではそのような事例への批判意識を根底に抱きつつ、基本的な層において、芸術現象の大多数を理解容易にするような基本枠組みとして、「芸術の美的定義」の擁護を試みた。

3. 研究の方法

(1) コンセプチュアルアートの事例研究。現象的、文脈的の両面から、この芸術形式の類型をできる限り多く抽出し、弁別する。

(2) 芸術定義の事例研究。芸術の定義にはきわめて多くのバリエーションがある。本研究では、芸術定義を文献に認められる限り多数列挙し、その内容上の比較を通じて、類似事例を隣接させる形で滑らかなスペクトルを描くように配列した。

(3) 芸術定義の構造研究。芸術の諸定義と、他の分野の諸定義(認識論、真理論、規範倫理学、ジェンダー論など)とを比較し、定義のシステムの同型対応関係を検証した。

(4) (2)のスペクトル作成において、なめらかな接続が継続しているか、すなわち、輪郭に断続箇所が認められないかを検証することから、ミッシングリンクに該当する「未だ発見されざる芸術定義」を発掘する。

(5) (3)の同型対応において、他分野における主要理論に対応する理論が芸術定義論において欠如している場合、その空席を埋めるべき「未だ発見されざる芸術定義」を発掘する。

(6) (4)(5)の発掘が出来ない場合は、もちろん、自ら「創造」することになる。

4. 研究成果

(1) 「3. 研究の方法」に従った研究の結果、芸術の美的定義を「頑固な本質主義」「美的」の再解釈」「美的」を「作品」に帰属させる方法の再解釈」「真偽認定の再解釈」「美的錯誤理論の容認」という五段階に区分して、その中に34種類の美的定義を列挙し、それぞれの定義的特徴を整理した。次に、美的定義以外の諸学説を「美的」を放棄した本質主義」「本質主義の放棄」「必要十分条件の放棄」「定義の放棄」「実在論の放棄」「認知主義の放棄」といった諸段階に区

分し、その中に 31 種類の芸術定義観を列挙し、それぞれの定義的特徴を整理した。

(2) 以上に加えて、非認知主義が逆説的に本質主義、美的定義の方へ回帰する模様を描き、過渡的な立場も含めて、7 種類の反動的な立場を付け加えた。反動的とは、美的定義への復帰を意味し、最終的に 72 番目の「命題態度（命題への志向性）による機能主義的定義」を研究代表者の指示する学説として詳述することになった。

(3) スペクトルを形成する諸説は、計 72 種類となったが、そのうち新たに創案した諸説のうち三つ（26 番目の垂直的多元主義、68 番目の全体論的定義、72 番目の命題態度による定義）については、それぞれ独立した論考を発表した。

(4) 他分野との同型対応検証の作業を通じて、ジェンダー論における諸説と芸術定義論との対応にとくに注力し、美的定義が身体性別による性別定義に対応し、「意図」などの命題態度による定義が遺伝子・染色体による性別定義に対応することを暫定的に明らかにした。非美的定義の各説は、社会的ステレオタイプやセルフ ID による性別定義に対応することも確認し、周辺事情につき幾つかの論証を組み立てた。結果として、ジェンダー論及び政治活動において優勢なジェンダー実在論を反駁し、ジェンダー唯名論に強固な支持を与えることに成功したと自覚している。

(5) 諸成果は、論文の形で発表したほか、非学術的な集会における啓蒙的プレゼンテーションでも幾度か公表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 三浦俊彦	4. 巻 40
2. 論文標題 美的対象としての第二次世界大戦	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美学芸術学研究	6. 最初と最後の頁 91-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002005693	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Toshihiko MIURA	4. 巻 46
2. 論文標題 What is Gender as an Individual Identity?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JTLA	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002005598	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三浦俊彦	4. 巻 39
2. 論文標題 芸術の諸定義 同型対応による認識に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美学芸術学研究	6. 最初と最後の頁 225-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002000988	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Toshihiko MIURA	4. 巻 44
2. 論文標題 The Holistic Definition of Art	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JTLA	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00079293	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三浦俊彦	4. 巻 38
2. 論文標題 芸術形式としてのジョーク	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美学芸術学研究	6. 最初と最後の頁 143-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079397	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦俊彦	4. 巻 1
2. 論文標題 「芸術」の終焉と「芸術学」の終焉	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学総長裁量経費プロジェクト「Sustainabilityと人文知」(2015年度~2020年度)報告書	6. 最初と最後の頁 77-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦俊彦	4. 巻 第37号
2. 論文標題 芸術の美的定義: その形式化からわかること M. ピアズリーの枠組みで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美学芸術学研究	6. 最初と最後の頁 95-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00077204	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦俊彦	4. 巻 第36号
2. 論文標題 芸術的錯誤の諸相 ジェラルド・レヴィンソンの芸術定義論を手掛かりに	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 美学芸術学研究	6. 最初と最後の頁 137-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦俊彦	4. 巻 『第132巻、第804・805号合冊』
2. 論文標題 コンセプチュアルアート視のための諸条件 「エンドレスエイト」のカテゴリ違和	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 哲学雑誌	6. 最初と最後の頁 79-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00074916	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦俊彦	4. 巻 単行本
2. 論文標題 思考実験と虚構世界、仮想世界、可能世界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中村靖子編『非在の場を拓く』春風社	6. 最初と最後の頁 553-574
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦俊彦、遠藤侑、山本茉輝	4. 巻 『創刊号 (Vol.1)』
2. 論文標題 「エンドレスエイト」理解へのループ的メタレポート	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの科学とエピステモロジー	6. 最初と最後の頁 88-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 加藤樹里・長滝祥司・大平英樹・柏端達也・金野武司・柴田正良・橋本敬・三浦俊彦
2. 発表標題 道徳的行為者となり得る3条件をシナリオで操作したロボットに対する道徳的判断の検討
3. 学会等名 認知科学会第39回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三浦俊彦
2. 発表標題 人間原理芸術学の観測点としての『涼宮ハルヒの憂鬱』
3. 学会等名 第69回美学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦俊彦
2. 発表標題 生死に関するカテゴリ違和の諸相
3. 学会等名 質的心理学会第15回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 見里敏比古（三浦俊彦）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 広東経済出版社	5. 総ページ数 296
3. 書名 這就是邏輯学	

1. 著者名 三浦俊彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かんき出版	5. 総ページ数 221
3. 書名 東大の先生！ 超わかりやすくビジネスに効くアートを教えてください！	

1. 著者名 美学会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 768
3. 書名 美学の事典	

1. 著者名 三浦俊彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学芸みらい社	5. 総ページ数 294
3. 書名 バートランド・ラッセル 反核の論理学者 私は如何にして水爆を愛するのをやめたか	

1. 著者名 三浦俊彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 二見書房	5. 総ページ数 217
3. 書名 論理パラドクス・心のワナ編：人はどう考えるかを考える77問	

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究成果に関しては、本研究期間に研究分担者として同時並行で行なっていた「個性を持つロボットの制作による 心と社会 の哲学」（基盤研究(B) 15H03151）と「道徳的行為者のロボットの構築による＜道徳の起源と未来＞に関する学際的探究」（基盤研究(A) 19H00524）における成果も、本研究と融合しているため、本研究報告に含めている。ただし、学会発表については、基盤Aでの実績はすべて複数人での共同発表なので、計三つの発表のうち、一つだけこの報告書に記すこととし、他の二つ（うち一つは国際学会での発表）は割愛した。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------